

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
生物・自然	生物の飼育・栽培や観察を通して、自然を大切にすることを育てます。	1	野菜、花の栽培(アサガオ、チューリップ、サツマイモ)	1年各担任	1年生	○野菜畑や雑草の生える空き地が同じエリアにあることや、実のなる木が周囲に複数植えられていることから、児童は理科・生活科等の授業時間や休み時間などに、頻繁に庭を訪れていた。児童は、季節の移り変わりにともなう動植物の変化を体感し、栽培や観察等を通して動植物を深く知るとともに、自然とのつきあい方や大切さに気づいていた。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 児童が動植物にふれる機会を定期的につくることができたため。 【今後の課題】 校舎南側の庭には、昨年度つくったビオトープがあるのだが、発展させるかことがなかったため、どのように活用するのか考えていく必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 校舎南側の庭のビオトープをどのように活用していくか、児童の学習活動に生かすことができるよう、検討していきたい。
		2	野菜の栽培と観察(ミニトマト)	2年各担任	2年生		
		3	野菜や花の栽培と観察(オクラ、ヒマワリ、ホウセンカ、大豆) カイコ、モンシロチョウの飼育と観察	3年各担任	3年生		
		4	ツルレイシ(ゴーヤ)の栽培活動	4年各担任	4年生		
		5	野菜や花の栽培と観察(ダイズ、アサガオ)、メダカの飼育と観察	5年各担任	5年生		
		6	ジャガイモやホウセンカの栽培と実験、水や空気や食物を通した自然の循環の学習	6年各担任	6年生		
資源・4R・廃棄物削減の取組	ごみの分別、リサイクル活動等を推進し、ごみの量を減らします。	1	古紙、プラスチックごみ、燃やせるごみに分別する。	全学年	全校児童	○環境委員会が中心となって呼びかけを行い、全学年全クラスでごみの分別を日常的に意識した。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 新型コロナウイルス感染症対策が落ち着き、校外学習など、体験的な学習が行えるようになったため。 【今後の課題】 身近な問題と地球規模の問題、環境保護と経済、建前と本音など、環境問題について多面的・多角的に考えることをさらに意識させていく必要がある。 【次年度への引継ぎ事項】 発達段階に応じた教材やデータの提示の工夫
		2	使用済みの紙や段ボール、シュレッダーごみの回収と資源化	教頭	職員		
		3	環境事業センターへの社会見学	4年担当	4年生		
		4	SDGsに関する調べ学習・ポスターセッション	6年担当	6年生		
		5	プラスチックゴミの回収	環境委員会担当	環境委員会		
		6	ペットボトルキャップの回収	環境委員会担当	環境委員会		
省エネルギー・省資源の推進	日常の学校生活の中で省エネルギー・省資源活動を実践します。	1	ポスターや校内放送を利用し、節電、節水、資源循環等の呼びかけを行う。	環境委員会担当	環境委員会	○環境委員会が中心となって、省エネルギーや省資源を呼びかけるポスターを作成した。 ○会議資料等の電子化について、校内 NAS ドライブや Google ドライブを活用し、できる限りデジタルデータを共有するよう心がけ、紙の使用が減った。	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 児童が、内容や表現のしかたを自ら工夫した、ポスターを作成することができた。 【今後の課題】 市役所など外部とやりとりする文書は、依然として紙媒体が多い。 【次年度への引継ぎ事項】 コロナ禍にあってもできる活動をさらに模索していく。
		2	会議資料等の電子化	教頭	職員		

●写真等の記録:活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】

大野 洋

【今後の方向性について】

教科等の学習と児童の日常生活、委員会活動などを関連づけ、小和田小学校の児童の実態に合った持続可能なエコアクションのあり方についてさらに考えていく。給食の残食量や教室のごみ分別など、児童が自らの学校生活や家庭生活を振り返り、学んだことと照らし合わせて自分ごととしてとらえ、進んで行動できるよう、活動の機会の設定や教材・題材の提示を工夫したい。